

一 次の文章を読んで後の問に答えよ。

妻の着物選びにたまに付き合わされることがあるのだが、a 厄カイなのは帯合わせである。着物の生地が決まって、さて、それにどんな帯を合わせるかという段になると、ややb ケン悪な空気が流れる。というのは、呉服店の主の出して見せる帯が、ことごとく着物と似たような色のものばかりだからである。着物にそれと似た色合いの帯を合わせると、何というか、めりはりがなくなつて全体がぼんやりしてしまう。①これが気に入らない。「もう少し違う色の帯はありませんか」

「いや、この生地にはこの色でない」と

「はいにはこちらも店の主も疲れ果てしまい、そこらに広げた何本もの帯を見下ろして、

「では、帯はまた今度にしましょう」ということになる。

こんなことが何度かあると、着物業界全体に着物と帯は同じ調子で合わせるものという固定観念がc 蔓エンしているのではないかと疑つてしまう。いつだったか、伊豆山の旅館、蓬萊のおかみにその話をすると、おかみはこんなことをいった。

「あら、同じ色のものを合わせるといふのは洋服の色の合わせ方なんですよ」

( I )、そう考えれば納得がゆく。たしかに洋服の場合、同色系同士を合わせるほうが無難であるうえにW シツクにまとまる。ブラウンのスカートにベージュのセーター、グレーのスカートに黒のカーディガン、男の場合も紺のパンツにライトブルーのジャケット、靴が茶色ならベルトも茶色にそろえないなどという。逆に異なる系統の色や、まして反対色を合わせるのは危険であり、できれば避けるべきだと警告する。それは西洋の服装の長い歴史の中で生み出されたひとつの原則であるにちがいない。

( II )、昔の日本にはこれと異なる正反対の色の流儀があつた。室町時代や江戸時代の屏風や浮世絵などを眺めていると、そこに描かれている人々のまもつていゝる衣装は相容れない色同士の組み合わせであり、西洋の原則からすると②禁じ手の色合わせがあふれている。

江戸時代の前期、浮世絵のd 開ツといわれる菱川師宣が描いた「見返り美人図」を見ると、どこへゆくところだろうか、X そそくさと歩んでゆく後ろ姿の女は桜や菊の模様の紅の着物に鮮やかな緑の帯を低く結んでいる。袂と裾からは白い襦袢がのぞき、肩にはゆるく結つた黒髪を垂らしている。異質の色同士の鮮やかな取り合わせといわなければならぬ。

同じころに描かれた「彦根屏風」には六曲一隻の金地に遊樂に耽る十五人の人物が描かれているのだが、その衣装の大胆な模様とe ザン新たな色使いには目を見張るばかりである。小さな犬を連れた若い女の着ている小袖は絞り染めとみられる朱や黒の大きな雪輪を散らしてある。女を相手に盤双六(バックギャモン)に興じる若者は黒い着物に鼠色の細帯を締め、朱塗りの脇差を差している。袖口からちらとのぞく襦袢も朱色である。ここには西洋で培われた洋服の配色とはまったく異なる原則でちりばめられたさまざまな色が人々の衣装や道具に躍動している。

昔の日本人の色合わせが今のよう同色系ばかりでなく、( III ) 異質の色同士を大胆に組み合わせるものであつたことがもっとよくわかるのは王朝時代の襲の色目だろう。これはY 宮中に入出入りする貴族たちの、いわば衣装の色彩についての約束であり、何枚かの衣を重ねて着るときの外と内、上と下、表地と裏地の色が季節により、身分により、行事によつて細かく定められていた。

( IV )、同色系のものもあるのだが、ひとときわ目を引くのは異なる系統の色同士を合わせた襲の色目である。( V )、春の桜の襲は白の表に紅の裏、夏の杜若の襲は紫の表に萌黄の裏、秋の黄菊の襲は黄色の表に青の裏だつた。どれも四季折々に咲く花の風情を色で写し取つているのだが、このようにして取り合わせたさまざまな色が女や男たちの襟元や袂からこぼれるさまはどれほど華やかであり、Z 奥ゆかしくもあつただろうか。

試しに自分でやってみればすぐわかることだが、大胆な色の組み合わせは、それを作り出す人間の側に自信と活気がなければ、決して生み出せない。それに対して、おとなしい同色系の組み合わせは当たり障りのない無難なものを求めるときに生まれる。古い日本の絵画に描かれた人々のまもつていゝる衣装が大胆な配色のものであるということは、当時の人々が上は雲上人から下は遊女にいたるまで自信と活気にあふれていたということでもあるだろう。現代の着物に蔓えんしている同系統の色を合わせるという流儀が洋服の発想であるなら、日本人は明治維新以降、西洋文化を学ぶうちに異なる系統の色を大胆に取り合わせる日本古来の色彩感覚を麻痺させ、失つてしまったことになる。

これは何も色だけの問題ではない。日本人は明治時代以降、近代化（西洋化）に夢中のあまり、異質なもの同士、調和という、③本来の和の姿を見失ってしまった。そして、万事において同質のもの同士が馴れ合っているのを和と勘違いするようになってしまったということである。赤には赤系統の色でないと合わないと考え、俳句では似たもの同士を取り合わせる。人間関係においても考え方が同じでなければ友だちになれないと考えている。それは今の日本人が昔の日本人のもっていた「A」を失ってしまったということでもあるだろう。

問1 傍線部aとeのカタカナの漢字を含む熟語を次の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。長谷川 權『和の思想』による

解答番号 a ① b ② c ③ d ④ e ⑤

- |      |     |     |     |     |      |     |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| a カイ | ① 界 | ② 会 | ③ 介 | ④ 芥 | b ケン | ① 険 | ② 檢 | ③ 儉 | ④ 劍 |
| c エン | ① 園 | ② 延 | ③ 援 | ④ 遠 | d ソ  | ① 租 | ② 粗 | ③ 阻 | ④ 祖 |
| e ザン | ① 漸 | ② 暫 | ③ 残 | ④ 斬 |      |     |     |     |     |

問2 傍線部①「これが気に入らない」という言葉の根底にある筆者の思いとして最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ⑥

- ① 着物と帯は同じ色で合わせるのがセオリーだとして譲らない呉服屋の頑固さに対する不満
- ② 着物と帯のメリハリのない取り合わせしかない呉服屋のセンスの悪さに対する不満
- ③ 女の買物物はいつも迷うばかりで決断ができず時間だけが無駄に過ぎていく事への不満
- ④ 日本人が本来持っていた感性や信条を忘れている事を自覚しない呉服屋に対する不満

問3 ( ) I～Vの中に入ることばとして適当なものをそれぞれ次の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 I ⑦ II ⑧ III ⑨ IV ⑩ V ⑪

- ① ところが
- ② なるほど
- ③ たとえば
- ④ もちろん
- ⑤ むしろ

問4 波線部WとZの意味として最も適当なものをそれぞれ次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 W ⑫ X ⑬ Y ⑭ Z ⑮

- |         |               |              |         |            |
|---------|---------------|--------------|---------|------------|
| W シックに  | ① 神経質に        | ② 上品で粹に      | ③ 穏やかに  | ④ 柔軟に      |
| X そそくさと | ① ゆったりと       | ② あわただしく     | ③ もの憂げに | ④ 堂々と奥ゆかしく |
| Y 宮中    | ① 江戸城の大奥      | ② 天皇の御所      | ③ 神社の拝殿 | ④ 大臣の館     |
| Z 奥ゆかしく | ① 大胆で目新しく     | ② 色気があって興味深く |         |            |
|         | ③ にぎやかでなまめかしく | ④ 上品でつつしみ深く  |         |            |

問5 傍線部②「禁じ手の色合わせ」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ⑬

- ① 大胆な模様を組み合わせること
- ② 同系統の色を合わせるといふ流儀
- ③ 異なる系統の色同士を合わせたこと
- ④ 四季折々に咲く花の風情を色で表したものの

問6 傍線部③「本来の和の姿を見失ってしまった」とあるが、その理由として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ⑬

- ① 日本の近代化の過程で西洋の考えを絶対視し、正しいと信じ込んだから
- ② 四季折々に咲く西洋の花の風情が日本古来の色彩感覚を麻痺させたから
- ③ 俳句では似たもの同士を取り合わせるので、それが普遍的だと思ふから
- ④ 同系統の配色が洋の東西を問わず落ち着いて見え、誰にでも好まれるから

問7 「A」には文中に一度使われた言葉が入るが、その言葉として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ⑬

- ① 大胆な配色
- ② 色彩感覚
- ③ 自信と活気
- ④ 色の流儀

用談がすんだから、もう帰ろうと思うと、どこかの工場で正午の汽笛が鳴っている。

「左様なら」と云いかけたaト端に、主人がふと席を立ったので、戻って来るのを待っているところへ奥さんが入れ違いに麦酒をお盆に載せて這入って来た。

私は、しまったと思つて途方に暮れた。

きらいではないけれど、飲みたいと思つていない時に、先方の思いつきで飲まされるのは迷惑である。後の用事とか予定とか、そう云う事は第二としても、自分のおなかの中の順序に、外部から干渉されるのが、いやなのである。

「折角ですが、どうかお抜きにならないで」

「まあおよろしいでは御座いませんか、大分お強いように伺つて居りますわ。宅では主人が①あんまり行けませんで」とか何とか饒舌ついている内に、何処で見習つて来たものか、栓抜きの横腹で、罎の口金をこつこつと敲く様な仕草を平気でやつて、それもいつべんで抜けないものだから、がりがり、いやな音をさせながら、罎を廻して、やつと抜くのである。

そこへ女中が鰻丼を持って来る。

既に②万事休して、このお蔭で今晚の食膳が、どんなに不味くなるかと考えると、先ず以て憂鬱になる。

コップが小さく、おまけに胴中がくびれて、あんまり沢山遣入らない様になっているから、奥さんのお酌でいくら飲んでも、麦酒を飲んだ様な気持になれない。うまくないので、好い加減に止めて井に移ろうとすると、奥さんは麦酒一本も明かないものだから、さもさも自分のもてなしが悪い所為のように考えているかどうかは知らないが、口先では③そう云う風に大袈裟な巧弁でイ憾の意を表しつつ、なおもう一杯二杯と薦めようとするのである。もてなし方が悪いのでなく、もてなしで貰いたくないのだから、交際の気合いが合わない。むつとした気持で鰻丼に箸をつけると、④因果な事に案外うまくたりして、一粒も残さず食べてしまった後ではおなかが苦しくなつて、頭は鬱陶しく、麦酒と一緒にふくれるものだから胸がどきどきし出す。だからこちらの欲せざる時に、外の時なら欲しそうな物を、先方の思いつきで、勝手に人の前に供せられては、困るのである。

午後の往訪は、もつと危険である。公bシユウ電話で都合を聞いたところが、お待ちしていると云う返事なので、早速出かけて、用談している内に、障子の外が薄暗くなりかけた。⑤漠然たる危険の予覚があるので、なるべく話を端折つて、いつでも立ち上げられる様な心構えにしていると、その内話が切れて座がしんとした。遠くのほうで、こつこつと、非常に速い拍子で、何か刻む音がしている。台所に違いない。奥さんか女中かが玉菜を刻んで、焼豚に添えて、麦酒を持って来る光景が⑥眼前に髣髴としてきた。

「それでは、失礼します」と私が云つた。

「おや、今、何まだ、いいじやありませんか、今」と云つて、主人が先に中腰になった。

主人に一旦引込まれると⑦事が紛糾しそうなので、その場の気配に閑せず、私は遮二無二挨拶をしてしまつて、立ち上がった。

玄関まで出る内に、主人は向うを廻つて⑧策謀本部に通報したらしい。奥さんが手を拭き拭き出て来て、「あらまあ只今」と云い引き止めようとする気配を見せたので、私は急いで土間に下りて下駄を穿いてから挨拶した。「どうも飛んだお邪魔を致しました」

「いえ、あの只今一寸、ほんの有り合わせの物で御座いますけれど、宅で用意した物を差し上げようと存じまして、それでまだご挨拶にも出来ませんでしたのに」

その、奥さんが挨拶にも出ないと云うところを、私は怪しいと睨んだのである。⑨明察、神の如く、愚図愚図していたら、おぞくもその手に乗るところであった。

「でもまあ、お宜しいでは御座いませんか、ほんの一寸、御手間は取りませんから、もう一度どうかあちらにお通り下さいませんか」

しかし、もう既に大勢は決しているのである。私は身辺の危険を感じる事なく、余裕を以て自分の失礼を詫び、再来を約して悠悠と帰路についた。不意に先方の思いつきで晩飯をあてがわれては、⑩その日一日の労苦が水泡にcキするのである。この事を、親切な奥さん達が考えてくれないのはdイ憾である。

問1 傍線部a～dのカタカナの漢字を含む熟語を次の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。内田百閒『贅慮』による  
解答番号 a 19 b 20 c 21 d 22

- |     |     |     |     |     |       |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| aト  | ① 函 | ② 徒 | ③ 斗 | ④ 途 | b シユウ | ① 周 | ② 集 | ③ 衆 | ④ 過 |
| c キ | ① 期 | ② 記 | ③ 帰 | ④ 着 | d イ   | ① 遺 | ② 意 | ③ 違 | ④ 依 |



問2 傍線部①、②、④、⑥、⑨のこの文中での意味として最も適当なものをそれぞれ次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

① あんまり行けません

① 自宅では酒を飲まない  
③ 医者に酒を止められている

② あまり酒が強くない  
④ よそに飲みに行く事ができない

解答番号① 23、② 24、④ 25、⑥ 26、⑨ 27

② 万事休して

① 全部見抜かれていて  
③ すべて終わっていて

② どの店も休みで  
④ ちっとも気が利かないで

④ 因果な事に

① うれしくなつて

② 日頃の心がけが悪いのか

③ 期待通りに

④ 運悪く

⑥ 眼前に髣髴としてきた

① ありありと空想されてきた  
③ 目前になつて取り消された

② 現実のものとなった  
④ めまぐるしく浮かんでは消えた

⑨ 明察、神の如く

① 明るいつとところで隠しようもなく  
③ 神様が陰で操るように

② 自分の推量がぴったり当たつて  
④ さつさと逃げたのがよくて

問3 傍線部③「そう云う風に大袈裟な巧弁でイ憾の意を表しつつ」の意味として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

① もてなしたい奥さんともてなしてもらいたくない私の気持ちが極端に食い違つてしまつて

解答番号 28

② 井の鰻などおいしくないかもしれないと必要以上の謙遜した態度でしきりに勧め

③ 自分のもてなし方が悪いためにあなたがビールを飲んでくれないのは残念だといつて

④ 奥さんのお酌でいくら飲んでも緊張のあまりビールを飲んだ気分がしないのが申し訳なくて

問4 傍線部⑤「漠然たる危険の予覚」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

① 明るいうちには帰宅できないかもしれない

② 晩飯が用意されるかもしれない

解答番号 29

③ 用件が簡単には片づきそうにない

④ 足がしびれて立ち上がれないかもしれない

問5 傍線部⑦、⑧の具体的な意味として最も適当なものを次の①～④の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。

⑦ 事が紛糾しそう

① 酒食でもてなされて面倒な事になる  
③ 再び出てくるまで時間がかかる

② 仕事の話がとぎれて進まなくなる  
④ 奥で奥さんとご主人が喧嘩になる

解答番号 ⑦ 30、⑧ 31

⑧ 策謀本部

① おいしい鰻丼を作つた女中  
③ 私への食事を準備している奥さん

② 先回りして玄関の外にいる奥さん  
④ 家で夕食を準備している私の妻

問6 傍線部⑩「その日一日の労苦」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 32

① その日の食事や食欲を自分なりに調整して主体的な摂食に努めている

② 親切な奥さん方が自分の嗜好を知るように相手に伝える努力をしている

③ 食べたいものを食べたいだけ食べるために空腹を保つ努力をしている

④ 折角相手がご馳走してくれるから一粒残さず食べる礼節を尽くしている

三

次の「ア」カの（ ）に入る適切な熟語を後の語群①～⑦の中から選んで記号で答えよ。

- ア（ ）のできればえ 解答番号 33
- イ（ ）の進歩を遂げる 解答番号 34
- ウ 国会に（ ）する 解答番号 35
- エ（ ）化した制度 解答番号 36
- オ（ ）術数にたけた男 解答番号 37
- カ世間に（ ）する 解答番号 38

- (語群)
- ①震撼 ②形骸 ③上程 ④流布 ⑤長足 ⑥権謀 ⑦出色

四

次の「目」を使った慣用句の意味として適当なものを後の語群①～⑨の中から選んで記号で答えよ。

- (ア) 目と鼻の先 解答番号 39
- (イ) 目鼻をつける 解答番号 40
- (ウ) 目もあやに 解答番号 41
- (エ) 目が出る 解答番号 42
- (オ) 目くじらを立てる 解答番号 43
- (カ) 目が高い 解答番号 44
- (キ) 目から鼻へ抜ける 解答番号 45

- (語群)
- ①見下して相手にもしない
  - ②物事の大体の決まりや見通しをつける
  - ③非常に近い距離
  - ④非常に賢い
  - ⑤わずかな欠点をとりたててうるさくとがめる
  - ⑥物を識別する力が優れている
  - ⑦幸運がめぐってくる
  - ⑧値段が異常に高い
  - ⑨まばゆいほど美しい

五

次の「ア」オの（ ）に漢字を入れて下の意味になるように三字熟語を完成させよ。答えはそれぞれ後の語群の漢字から選んで記号で答えよ。

- ア（ ）頂天 喜びで夢中になつてゐること 解答番号 ア 46
- イ（ ）一髪 物事が非常に緊迫していること 解答番号 イ 47
- ウ（ ）風景 趣がなくおもしろみのないこと ウ 48
- エ（ ）面皮 恥知らずで厚かましいこと エ 49
- オ（ ）源郷 俗世間を離れた理想郷 オ 50

- (語群)
- ①殺 ②危 ③鉄 ④偽 ⑤原 ⑥水 ⑦桃 ⑧問 ⑨有

六

次の「ア」オの作家の作品として適当なものを後の作品群からそれぞれ選んで記号で答えよ。

- ア石原慎太郎 解答番号 ア 51
  - イ三島由紀夫 解答番号 イ 52
  - ウ大江健三郎 解答番号 ウ 53
  - エ工開高健 解答番号 エ 54
  - オ才北杜夫 解答番号 オ 55
- (作品群)
- ①点と線 ②金閣寺 ③砂の女 ④飼育 ⑤裸の王様 ⑥楡家の人びと ⑦太陽の季節